

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

9. イエスはさらに3つのたとえ話で教えを終える

デイリー・ジーザス・ニュース #095

基本テキスト: マルコ4.21-29; マタイ13.34-35, 51-53 (並行テキスト: マルコ4.33-34; ルカ8.16-18)

21 イエスは彼らに言われた。（スタンドの上のランプのたとえ）

「あなたがたは、ランプを持って来て、それを鉢の下に置くのか、壺の中に隠すのか、寝床の下に隠すのか。むしろ、ランプの燭台の上に置くべきではないか。そうすれば、入ってくる人たちに光が見えるだろう。」
22 隠されているものはすべて明らかにされ、秘められているものはすべて明らかにされるからです。

23 「聞く耳のある者は、聞き続けよと命じます。」

24 「ですから、私はあなた方に命じます。聞くことをよくよく考えなさい。あなたがたの量りで、あなたにも量り与えられ、さらに豊かに与えられるでしょう。25持っている人はさらに与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられるでしょう。」

26 また彼は言った。（成長する種のたとえ）

「神の国は次のようなものです。人が地に種を蒔くと、27夜も昼も、寝ても起きても、種は芽を出し、成長し続けます。どうしてそうなるのか、本人は知りません。28土はひとりでに実を結び続けます。最初は茎、次に穂、そして穂の中に実った実です。29実が熟すると、人は鎌を入れます。収穫の時が来て、まだ残っているからです。」

34イエスはこれらのことすべて群衆に話された。多くのたとえを用いて、彼らに理解できる限りのことを語られた。たとえを用いには何も語られなかった。弟子たちと二人きりになったときには、すべてを説明された。35こうして、預言者を通して言われたことが成就した。

「わたしはたとえ話をもってわたしの山を開き、世界の創造以来隠されていたことを語る。」（詩篇78:2）

51 最後にイエスは尋ねました。「あなたはこれらのことすべて理解しましたか？」

「はい」と彼らは答えた。

52 イエスは彼らに言われた。（新しい宝物と古い宝物を持つ家の所有者のたとえ話）

「ですから、天の御国で弟子となつた律法学者は皆、自分の倉から新しい宝も古い宝も取り出す家の主人のようです。」

53 イエスはこれらのたとえ話を終えると、そこから立ち去られた。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤのどこか、ガリラヤ湖の近く
タイムライン	5月～10月（16～21か月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼
タイトル	9. イエスはさらに3つのたとえ話で教えを終えた

コメント：

イエスは最初の公の教えを、三つの「要点」となるたとえ話で締めくくりました。それぞれが、それ以前の七つのたとえ話と異なる形で関連していました。マルコとマタイによる本文の結びの言葉は、主がその日に実際にはこれらの10の物語だけでなく、さらに多くの物語を語られたことを示しています。私たちが書き記しているのは、その内容の最も重要な核心部分だけです。

第八のたとえ話「スタンドの上のランプ」は、光の比喩を用いてイエスの言葉からもたらされる啓示を説明しています。イエスの言葉は最終的に世界中のすべての人を「照らす」でしょう。いかなる嘘、偽り、隠蔽工作も、最後の審判において真実を覆い隠すことはできません。神は、スタンドに置かれたランプのように、真実が見られ、聞かれるために語られます。神の言葉が光であるという性質ゆえに、イエスはこのたとえ話に関連して、重なり合う二つの命令を与えました。

まず主は、イエスがたとえ話を通じて何を意味しているのかをある程度理解している人々に対し、「**聞き
続けなさい**」、つまりたとえ話に隠された真理について考え、それに応え、完全な悔い改めと信仰に至るまで続けるようにという命令を繰り返しました。真に聞くことは常に大変な作業です。しかし、イエスの命令を理解し、従うために必要なだけ、一生懸命、そして長く考える努力をすることは、純粋な知恵です。それは力強い恵み、そして喜びと栄光の増大へと導きます。ですからイエスは、聞き手たちに、御言葉が完全に実を結ぶまで、聞き続け、御言葉を深く理解するように勧めました。これは、イエスが語られた時と同じように、今日の私たちにとっても大切なことです。

第二段階の戒めは、耳にするすべてのことを注意深く評価する必要性について警告しています。この世には多くの雑草が生えています。日々耳にする意見や考えのほとんどは、イエスの永遠の命という賜物ではなく、私たちを広い世界へと導き、滅びへと導くでしょう。ですから、イエスの言葉だけでなく、耳にするすべてのことに注意しなければなりません。私たちは毎日、イエスが語られたことの光に照らして、あらゆる情報を評価しなければなりません。イエスこそが真理の基準なのです。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

「成長する種」の第9のたとえ話は、「種まき人、種、土」の冒頭のたとえ話に付け加えられたものです。このたとえ話は、神が生きた種を完全に成熟させるまで成長を止めないように設計されたことを強調しています。種のDNAには、24時間365日、絶え間なく成長し続けるように設計されているのです。神の言葉には、私たちが従うならば、絶え間なく永遠に成長し、イエスに似た者へと導く力も備わっています。私たちは、キリスト教徒ではない人々に神の言葉を伝えることができます。彼らが神の言葉を信じ、従うならば、神の力が彼らの救いを創造し、成長させてくれるという絶対的な確信を持って。

10番目で最後の小さなたとえ話は、かつて律法学者で旧約の律法の専門家であったイエスの弟子たちと、大家族の世話をするために自分の宝物から新旧の財産を持ち出す大家の主人を比較しました。イエスの教えは、旧約の律法の意図と精神と100%一致していました。イエスはそれを成就するために来られました。しかし、イエスが自らの血によって確立する新しい契約には、信じられないほど新しい祝福と恩恵がありました。それはあまりにも素晴らしいもので、天使たちがそれを見たいと切望し、昔のすべての聖徒たちもそれを体験したいと切望しました。これは、当時も今も、イエスのすべての弟子たちの豊かな遺産であり、受け継がれてきたものです。

さて、少し時間を取って、全体像を振り返ってみましょう。イエスへの反対は、この時点から宣教の最後まで強まり続けました。そのため、イエスは地上での生涯の残りの間、群衆に対して、憎む者、反対する者、あるいは真に耳を傾けない者も含めて、たとえ話を用い続けました。彼の最も壮大なたとえ話のいくつかは、受難週に語られるでしょう。

第二回ガリラヤ巡回は、イエスの宣教活動2年目の夏期に行われました。これまで取り上げてきた一連の出来事はすべて、巡回の最初の1、2日目に起こりました。これから、この巡回の様子を6つの強力な奇跡を通して解説していきます。これは、イエスの宣教活動の中で最も多くの奇跡が連續して起こった出来事です。さあ、準備万端！

イエスは、外部の人々のためにたとえ話という媒体を用いてメッセージを伝えるようになっただけでなく、第二巡回旅行中は十二使徒、そしてより大規模な専任の弟子たちと過ごす時間も調整しました。イエスは、主にご自分に群がり続ける大勢の群衆に仕えるのではなく、天に帰られた後もすべての国々への宣教を続ける働き手を訓練することに、ますます多くの時間を費やしました。六つの奇跡の後、集中的な弟子訓練がイエスの宣教活動の中心に据えられるようになる様子に注目してください。

応用：

イエスは、献身的な弟子ではない人々にはたとえ話で語り、弟子たちには個人的にたとえ話の意味を説明しました。こうしてイエスは弟子たちを「助け」、築き上げました。弟子たちへのこの個人的な奉仕は、後に聖霊が「私と同じようにもう一人の助け手」となると約束された際に、イエスが念頭に置いていたことの一部でした。弟子たちは、イエスがすべてを個人的に説明することに慣れていました。聖霊は今日、このようにして、信者たちの心と精神に個人的に働きかけているのです。イエスはこう約束されました。

「これらのこととはすべて、わたしがまだあなたがたと一緒にいたときに話した。しかし、父がわたしの名によって遣わす助け主、聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」ヨハネ14章26-27節

聖霊は、イエスが宣教において語ったすべてのことについて私たちの理解を啓発する働きを持っておられます。それによって私たちは、愛の表現である従順をもって主に従うために十分に備えられます。これは、イ

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

イエスが語ったすべてのたとえ話だけでなく、新約聖書に記録されているイエスの生涯における他のすべての教え、約束、そして戒めにも当てはまります。

イエスが御言葉の中で語られたすべてのことについて、あなたの理解が開かれるよう、毎日聖霊に祈り求めてください。聖霊は必ずそうしてください！あなたは日々、どのようにしますか？